

シェルターアーカイブの基本操作例

LTOテープの保管

- 1 ビデオテープあるいはデジタルデータをLTO (Linear Tape Open) テープに移す。

【VATIC File Transfer Router (VATIC FTR) を使う場合】
保存するクリップを指定するとVATIC FTRが起動。送出サーバーからドライブにセットされたLTOテープにデジタルデータが自動的に保存される。

※VATICとの連携がない場合、ご相談で対応

- 2 LTOドライブからLTOテープを取り出し、LTOテープをケースのまま、バーコードリーダー・スロット「VATIC-A150」に挿入する。



- 3 LTOテープのID (バーコード) を読み取ると、前面のディスプレイにIDが表示され、30秒間ブザーが鳴る。鳴っている間にスロッカーの引き出しの空いている場所 (任意) にLTOテープを保管する。



- 4 保管と同時に、スロッカー底部のセンサーがLTOテープを検出し、保管位置情報とLTOのID (先に認識したバーコード) を紐づけられ、VATIC FTRに記録される。

僕が伺います!



問い合わせ先

055-932-8186 担当: 平石 慧
株式会社ビデオ・テック
静岡県沼津市下香貫島郷2761-1
<http://www.videotech.co.jp/>

LTOテープの取り出し

- 1 VATIC FTRの検索画面からキーワードを入力して検索。
・LTOテープのIDがわかっている場合は、その番号を入力する。
・VATIC-9800を導入している場合は、データマネージャーからクリップ検索をする。
同じキーワードで複数のクリップが存在する場合、画面右側に該当リストが表示されるので、目的のクリップを選択。



- 2 画面上に、該当するLTOテープのスロッカー位置と、スロッカー内のテープ位置をLEDが点滅して知らせる。



- 3 タリパネルが点滅しているスロッカーを開け、緑色に点滅しているLTOテープを取り出す。



- 4 取り出したLTOテープをLTOドライブにセット。セットされたLTOテープから該当するクリップを送出サーバーに自動転送する。

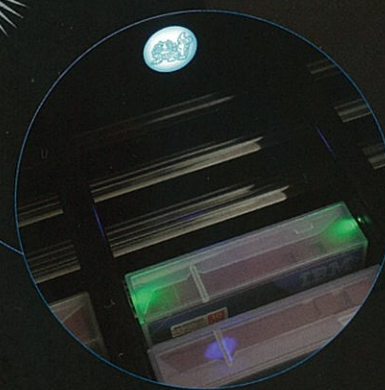


VATIC
ビデオ・テック提案



個人から企業まで デジタルデータを賢く安全に保管・管理する シェルターアーカイブ

ほしいデータの入る
LTOテープの収納箇所を
ピカッと光って教えます



• 構成: 月刊ニューメディア編集部
• 写真: 渡辺 茂史
• 「月刊ニューメディア」2015年10月号掲載記事

杉山知之 (デジタルハリウッド大学学長) に聞く

学生たちの作品と制作データを大学としてデータ保管、アーカイブ化を進める

本学の資産は学生の作品です。それらは形を持つ“物”ではなく“デジタルデータ”ですので、保管し、将来にわたってアーカイブする役割が大学当局にあると考えています。学生の作品をアーカイブするときは、完成した作品だけではなく、それぞれのファイルに制作プロセスのデータを残すことが大事です。膨大なデータ量になりますが、卒業後も含めてアレンジを直したり、新たな制作手法で再編集もできるからです。

私自身の経験からアーカイブの重要性

を知っていました。アメリカMITメディア・ラボでの研究を深めた時期の成果は、学会の発表論文として紙メディアで残っているだけです。当時のデジタルデータはフロッピーディスク (FD) に保存していましたが、今ではFDの所在すらわからない散逸状態です。また、もし見つかったとしても何を保存したのか、また再生すら難しい環境になっています。このような「無法状態」で放置してはダメだということです。

長期的な視点で考えると、保存したデ

ジタルデータは教育の過程と成果を結び付ける研究対象の素材となります。ですから50年、100年の先でも再生できるフォーマットでアーカイブする必要があります。

アーカイブシステムにはオンプレミスのサーバーや、クラウド上にあるサーバーを利用する形態があります。本学では、その両方を組み合わせた活用を考えています。一つは、現役生が日常的に時間をかけずに呼び出せるタイプ、もう一つは世代を越えて受け継いでいく長期保存のタイプです。

アーカイブに不可欠なメタデータも重要です。本学では「学生カルテ」として、営業支援・顧客管理アプリケーションである「セールフォース」を採用していますが、それをベースにする考えを持っています。一人ひとりの学生を家庭環境から多角的にとらえ、メタデータとして充実させようという考えです。学生カルテに作品のメタデータを加えることで、学生たちが学んだ成果を大学として記録し、保存していくことができます。

ICT技術の進化が速度をさらに早める中、安全かつ確実に学生一人ひとりのデジタルデータと作品の履歴を残すことに取り組んでいきたいと考えています。

杉山知之

●デジタルハリウッド大学学長 / 工学博士
1987年～90年MITメディア・ラボ客員研究員として最新メディア動向を研究し帰国。国際メディア研究財団・主任研究員などを経て1994年10月にデジタルハリウッド設立。2004年にデジタルハリウッド大学院を開学。同年11月にデジタルハリウッド大学が文部科学省の認可を得て学長に就任。2005年4月に開学。



セミナーなどで発言する機会も多い杉山知之学長

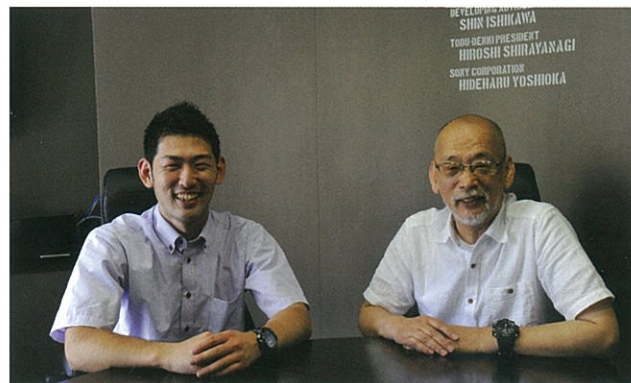
シェルターアーカイブの7つの特徴と強み

全国のケーブルテレビ局で活用されている自動番組送出装置「VATIC」を開発・販売する株式会社ビデオ・テックが、デジタルデータを賢く安全・確実にアーカイブするためのシステム「シェルターアーカイブ」を開発した。

特徴は、①シンプルな仕組みで人為ミスのない使い勝手の良さ、②地震災害や日常の埃・塵から守る堅牢さを擁していること。

個人から企業まで、所有するデジタルデータを安全に確実に残し、簡単な操作でほしいデータを素早く取り出せる「賢いアーカイブシステム」と好評だ。

シェルターアーカイブを開発した株式会社ビデオ・テックの平石能敬代表取締役 (右) とシェルターアーカイブの販売・運用を担当する平石慧氏 (左)



1 LTOテープで保管

LTOテープは大容量かつコンパクトなメディアのため保存スペースを削減できる。さらに、オープン規格で汎用性が高く、保存性に優れている。その上、安価。

2 棚管理だけど「安全・安心」

棚管理の場合、データの入るメディアを持ち出されても気づかないが、シェルターアーカイブはLTOテープをID管理しているため、不正な持ち出しや盗難を抑止できる。

3 防塵対策を三重に強化

堅牢な筐体の引き出し式ストッカーにパッケージケースのままLTOテープを収納することで、日常的な埃や塵から三重に保護する。

4 シンプル機構でトラブルなし

【保管】LTOテープのバーコードを読み取らせ、ストッカーの空いている場所に入れるだけ。

【取り出し】必要なデータを管理ソフトで検索すると、ほしいデータの入るLTOテープの箇所を示すLEDが点滅するので、後は取り出すだけ。

シンプルな仕組みだから人為ミスもない。

5 シンプル機構だから低コストでメンテナンスフリー

6 コンパクトな省スペース構成

サイドテーブルタイプにすべての機能を収納。

7 VATICとの連携でより便利に

これからファイル化する人へ「シェルターアーカイブ・エクセル・ユーティリティ」(メタ管理システム・エクセル版) を提供。



ストッカー2段に収納できるLTOテープは60本。しかも、ストッカーは増設可能。LTOテープは第10世代までのロードマップが明確にされており、そのパフォーマンスは容量が非圧縮時48TB、圧縮時120TB、転送速度が非圧縮時1100MB/秒、圧縮時2750MB/秒



LTOテープ